

函館支部

函館支部の活動経緯と今後について思うこと

函館支部支部長 岩崎 初男 (昭和48年・土木)



函館支部は昭和38年8月18日に「湯川 喜代本」に於いて、約30名出席で総会・懇親会を開催して以来、ほぼ毎年総会（懇親会含む）を開催し今日に至っています。

総会出席者が60名を越えた年もありましたが、平成5年ころまでは40名程度、以降令和元年まで20~30名程度での開催となっています。

活動状況についてですが、以前は40歳前後の比較的若い人が常任幹事となって、率先して幹事会を開いて日時と場所を決め、会員名簿を作成し、ハガキ郵送（約150通）による案内や先輩の助言を得ながら経過報告書、事業報告書、会計決算報告書等の資料を作成し、相当の時間を費やして総会を開催してきました。

総会は支部長挨拶に始まり、顧問や2年に一度本部より派遣された役員挨拶後、活動経過報告・事業報告、会計決算報告等、役員改選があれば新役員を選出し、これらの議題を出席者の同意と承認を得て議決して終了、その後に懇親会を開催してきました。

本部役員には講師になって頂き、大学の近況や現状活動のほか興味ある有意義なお話、大学の改革と将来についてスライド等を用いて詳しく説明・紹介して頂き、大学の活動と将来について認識を新たに、知識を深めてきたところです。

懇親会では自己紹介や経験豊かな先輩方の話を聞いたり、同窓生同士、お互いに仕事の話や世話をしたり、懐かしい学生時代の思い出話等に花を咲かせたりなど、和気あいあいとした雰囲気の中かで時間がくるのを忘れて美味しいお酒を飲み、料理を食べ、最後は寮歌斉唱し、大いに楽しい時を過ごし、それぞれが二次会へ向かったものです。

しかし、20数年前から年々、総会への出席者が少なくなる傾向となり（会員の高齢化、官公庁の綱紀粛正、企業の衰退など社会情勢の変化により特に若い人たちの参加が減少）、かつ、参加者も同じ人に特定される傾向になってきました。

この原因として、若い人たちが昔と違い、同窓会活動に対し無関心になって来ているものと感じます。

この傾向を何とか改善すべく、総会の日時と場所を平成23年度より固定し、室工大同窓会の函館支部総会と言えば毎年10月の最終金曜日会場は「ホテル法華クラブ」で実施するものという観念の植え付け、総会参加を促すため参加しやすい状況を作ったり、若い人同士の会合に助成金を出すなどの策を講じてきましたが、総会参加者の増加には繋がらず、功を奏していません。

同じ職場の先輩・後輩の関係を活用して若い人と接触して総会に誘っても同意を得られず、また無理強いも出来ないことから、その意識を変えるのは難しく、対応に苦慮しています。

先輩・後輩の縦の繋がり、若い人同士の横の繋がりも以前と比べ希薄になってきていると思われるます。

こうしたなか毎年新しい参加者が1名でも増えるよう、未来ある同窓会にしていく必要があると考えていますが、同時に本部におかれましても在学生に同窓会活動の意義をアピールし、活動参加を促すことが大切だと思います。

現在の函館支部は役員・幹事が高齢化し、若い人も若干いますが会合への出席がなく、活動に支障をきたす状況になりつつありますが、今後何とか若い人に同窓会活動に興味を持ってもらい、総会に参加して頂きたいと思っています。

特に懇親会は会員相互の親睦を深めるものですから、型苦しく考えないで気軽に、また気楽に是非参加してもらいたいと切に思います。

なお、新型コロナウイルス流行の影響により感染防止の観点から活動停止を余儀なくされ、令和2年より総会は開催しておりません。

(令和5年度は役員7名の出席で幹事会のみ開催しました)